

ソウル大学校留学成果報告書

教養学科総合社会科学分科国際関係論コース 伊澤 涼

履修した授業

- ① セクシュアリティと性平等/社会学部/水曜 13:00-16:00/韓国語/30 人程度
- ② スペイン語中級/人文学部/火曜・木曜 9:30-11:00/韓国語/8 人程度

まず私について簡単に紹介しておく、所属は教養・国際関係論コース、第二外国語選択はスペイン語であり、韓国・朝鮮語は第三外国語として履修し3年の夏にTOPIK（韓国語能力検定）の最高級を取得、3年夏から4年夏まで1年間米国ワシントン大学で交換留学も経験し、5年の最後の学期（9-12月）にソウル大学校で交換留学生として勉強した。学部生として最後の学期での留学だったので、留学しながら卒論を執筆するという変則的な形になったが、12月に帰国後、すぐに卒論を提出することができ、その直後の3月に卒業・就職予定である。韓国・朝鮮語に関しては2年の春から勉強を始め、2年の冬に一ヶ月間語学留学でソウルに滞在し、米国留学中も1年間を通してワシントン大学で開講されていた上級韓国語を履修した。

この成果報告書では「①学業について」「②サークル活動について」「③それ以外の経験について」順を追って記述する。

①まず学業に関して、韓国の大学での最初の関門は履修登録（수강신청=受講申請）である。期間内に履修登録をすれば良い東大とは違い、完全に早いもの勝ちのシステムなので履修登録開始の瞬間にパソコンの前に待機し、更新ボタンを連打することになる。幸いに私が受講を予定していた授業はそれほど人気のある授業ではなかったため、無事履修することができたが、人気がありそうだったり、少なめの受講人数制限になっている授業を履修したりしたい場合は注意する必要がある。私は当時ハンガリーのブダペストに滞在中であり、深夜に履修申請をしなければならぬかなり大変な思いをしたので、ソウル大に留学を考えているのならこの時期に海外旅行に行くのはあまり良い考えではないかもしれない。

履修登録では4つの授業（=12単位）を登録した私だが、上記のように結局単位取得をしたのは2つ（=6単位）である。これはソウル大の「ドロップ制度」を利用したためである。この「ドロップ制度」は、一旦履修登録をしたあとでも、学期の半ばほどまでは授業担当教員から書類にサインを貰うことによって履修を取り消すことができるという制度であり、2週、3週と授業が進行していくにつれて授業前後に教授のところに申し訳無さそうに向かっていきサインを貰う学生の姿はどの授

業でも見ることができる。私の場合、興味があり履修登録をした大学院の授業の初回で自己紹介とともに「あなたにとって理論とはなにか」を1人5分ほど即興で話すこと（もちろん韓国語で）を求められ、また毎週それぞれ100ページにもなる英語と韓国語のリーディングとそれを元にした論点を書いたショートペーパーの提出（これももちろん韓国語）があることを知り心が折れてドロップすることにした。ソウル大に通っている韓国人の学生なら必ず一度は経験することなので、思い返せばドロップしておいてよかったと感じている。「初回授業に行ってみたら思った以上に大変そうで心が折れてドロップした」というソウル大（韓国の大学生？）あるあるを留学生が言うと結構韓国人からは面白がってもらえるので、書類作成の経験という意味でも、韓国人に話せる持ちネタを一つ持つておくという意味でもドロップは躊躇せずにやってみると良いと思う。

履修した授業のうち、「セクシュアリティと性平等」では釜山訛りのきつい教授の韓国語に最初は苦戦したが、徐々に慣れてくると授業の理解にはほとんど問題なくなり、授業中に発言などもできるようになってきた。内容としては米国で履修したフェミニズム入門の授業と重なる部分も多く、それほど難しくはなかったが、韓国に特有の社会問題や新造語などがしばしば登場する授業で、わからなかった部分はあとで韓国人の友人に聞いたりして知識を補う必要があった。例えば、韓国の、特にネット上でのフェミニズムでは「4B」という概念がしばしば言及され、これは「非婚・非出産・非恋愛・非セックス」を指すが、学生や教授は皆「サビ=사비」と発音するため、最初は何の話をしているのか皆目検討がつかなかった。韓国語はかなりこのような省略語が多く用いられる言語なのでその都度確認していかないと授業についていけなくなってしまう。また、朝鮮半島の日本統治時代に関する言及も多く、ほんの少しだけ居心地が悪い瞬間（日本人として感じるべき居心地の悪さだと思ってはいるが）もあったが、教授や他の学生からハラスメントを受けるようなことは全くなく、韓国の大学における日本統治時代の語られ方の肌感覚を知ることができたという意味で良い経験になった。

一緒に受講していた他の学生に聞いたところ、3年生向けの授業にしてはかなり提出物などが多く大変な方であり、4ページほどのレポートが2本、グループ発表、期末試験により評価が行われた。特に期末試験は10問ほどの問題にそれぞれ6行ほど記述して回答するというものであり、非ネイティブである私にはかなり骨が折れるものであった。しかし、すでになんか馴染みのある分野の授業ということで成績はAを取ることができた。

受講したもう一つの授業は「スペイン語中級」である。これは主にスペイン語から韓国語への翻訳を行う授業であり、教科書のスペイン語がかなり難しい上に韓国

語も思い通りに使えない状況で受講を始めたのでかなり苦戦した。しかし、受講人数も少なくかなりアットホームな雰囲気だったのでそれほどストレスに感じることはなかった。以前米国留学中に韓国語上級の授業を履修した際にも感じたことだが、日本語を通して外国語を勉強するよりも得意な言語で苦手な言語を勉強したほうが両方の言語の伸びが期待でき、効率的である。

毎週2ページほどのスペイン語を韓国語に翻訳することが求められ、それに加えて中間試験と期末試験で成績が決定される。スペイン語→韓国語の翻訳は思った以上に骨の折れる作業であり、パソコンのブラウザで「西韓辞典」「西英辞典」「英韓辞典」「韓和辞典」「英和辞典」「西和辞典」などを開いてそれらを行き来するような形になったが、間接的に英語の能力が伸びたと感じる部分もあり（基本的にスペイン語の解釈は英語で行っていたため）、かなり有意義な授業だった。教授は期末試験を配布する際に「みなさん今学期は頑張ったのでよほどのことがなければみんなにAあげますよ」と言っていたが、この授業でもAを取ることができ、よほどのことをやらさなかったという意味で満足の行く結果になった。

またこの授業に関する質問をスペイン語圏から来ている留学生に聞くことで新たに友達を作ることができ、付随的な側面ではあるがこれからも継続してスペイン語を使う機会を作れたという意味で有意義であったと思う。

②サークルに関しては「今まで一度もやったことのないことを、韓国語でやりきろう」と決め、コンテポラリー・ダンスのサークルに入会した。ダンス自体の経験が全くない状態だったため、自信を喪失し、また課題や卒論に忙殺されて練習に行きたくないと感じる日も多かったが、一学期を通してほとんどすべての練習に参加し、留学後連



帰国直前にサークルのメンバーと大学周辺で

絡を取りつづける友人も何人か作ることができた。単に友達を作り、ダイエットになったということ以外にも、ダンスという日常生活から離れた場で用いられる韓国語を学ぶことができたという点で学びが多い経験になった。最後の練習の日にはサ

ークルのメンバーがお別れ会を企画してくれ、きちんと仲間として認められたのだと感ずることができた。

サークル探しに関しては友達の紹介などがない場合はかなり選択肢が少なくなってしまうが、それでも学期の始まりに東大のテント列のような形（東大よりもかなりこじんまりとしているが）で勧誘活動を行っているサークルがかなりの数あり、そこである程度は探することができる。大学公認（？）のサークルは大学に所属している構成員からの所属を拒めない、ということらしいのでこの勧誘活動に参加しているようなサークルに関しては留学生でも問題なく加入できるものと思われる。

③学業とサークル以外では他の留学生との交流も今回の留学の実りの多い側面の一つである。韓国語である程度問題なく日常生活を送れるとはいえ、その言語だけを使って生活しなければならないというのはしらずしらずのうちに結構なストレスになっていたようで、定期的に世界各地から来ている留学と飲み会に行ったり、食事をしに行ったりしてストレスを解消するようにしていた。私の行っていた学期はイギリス、アメリカ、ドイツ、オランダなどの西欧圏からの留学生が多く、英語でのコミュニケーションも全く問題なく取れたため、英語力を維持するという意味でも非常に良い環境であったと感じている。このような機会を提供する場として **SNU Buddy** というサークルのようなものがあり、定期的にイベントを企画したり、大学の近くで毎週パーティーのようなものを開催したりしてくれる。大学公認のサークルではあるが、アルコールを伴うイベントも多く嫌厭している学生も多かったが必ずしもお酒を飲まないイベントも数多く企画しているので、時間的・精神的に余裕があるようならば参加してみるとよいだろう。

ソウル大には主に留学生などを対象として言語交換プログラムも用意されており、私の場合それを通してアメリカ人（英語と日本語の言語交換）と韓国人（韓国語と日本語の言語交換）と週に一度食事をしながら話す機会を設けることができた。寮と教室の往復になってしまい、憂鬱になりがちな留學生活によいアクセントとなり、言語能力を高めるという意味でもよい機会であった。

私が前回の米国留学中にそうであったように、ソウル大に來ているアジアからの留学生の中には韓国語に集中したかったり、英語力に自信がなかったり、単に面倒くさかったりして他の国から來ている留学生と付き合わないという人が多いが、留学という機会がないとこれだけ多様性のある空間にいることはなかなかでき



交換留学生たちと大学すぐ近くの冠岳山に登った際に取った写真

ないのでぜひ色々な国の色々な人と関わる機会を持ってほしいと思う。

最後に、留学中の大きな経験の一つとして延辺旅行がある。中華人民共和国の延辺朝鮮族自治州では、中国語に加えて朝鮮語が公用語として認められ教育でも用いられており、未だに朝鮮語がある程度一般的に話されている地域である。卒業論文のテーマとも大きく関係する地域であり、韓国語ではない「朝鮮語」が話されている地域として言語的にも興味深い地域である。延辺滞在中には北朝鮮政府が運営しているホテルに滞在し、北朝鮮人の従業員の北朝鮮訛りの朝鮮語も理解しコミュニケーションを取ることもでき、また地元の延辺の方言も実際に耳にすることができ、朝鮮語への理解を深めるという意味でもかなり意義のある旅行になった。

都市部である延辺に加えて、朝鮮民族へのゆかりの深い長白山（白頭山）を訪れることもできたほか、北朝鮮との国境にある街、図們に行き実際に北朝鮮の町並みを目にすることもでき非常に良い経験になった。

学び初めてまだ4年も経っていない言語で、その言語圏で最も権威ある大学の授業を受けるというのはかなり **challenging** なものであり、無理なのではないか、と諦めそうになったこともあったが、きちんと授業に出席して授業内容を復習するという基本的なことができているならば無理難題という程のことではないと感じた。今

1、2年生として韓国・朝鮮語を履修しているという人は卒業前にソウル大で韓国語で授業を履修してみることを考えてみてもいいのではないだろうか？

追記) 外国人登録証 (ARC) が発行されると、韓国人と同様に携帯電話のプランを契約できるようになり、その電話番号に紐づけてアプリ上での振込やカカオペイのような送金サービスが利用できるようになる。ソウル大生の中には飲み会などに来るときにはケータイとカードしか持ってこないという人もかなり多いので、アプリ上での送金ができると喜ばれることが多い。単純に韓国人の友人に喜ばれるだけでなく、非常に便利なサービスなので ARC が発行され次第登録することをおすすめする (韓国の事情に疎く、韓国語のわからない留学生はいつまでも現金を使っており非常に不便そうだった)。また、ARC の発行とともに Coupang のようなオンライン・ショッピングサービスやオンライン出前サービスも利用できるようになるので事前にリサーチしておき、なるべく早く利用開始することでより QOL の高い韓国生活を送ることができるだろう。